



# 浦和大里小学校だより

1月号 令和8年1月8日発行

教育目標  
夢と希望をもち、  
人間性豊かで  
心身ともに  
たくましい子の育成

## 「ために」と「ともに」

校長 中野 緑



謹んで、新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、浦和大里小学校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。本年も、子どもたち一人ひとりに未来への希望が生まれる学校生活となりますよう、保護者や地域の皆様のお力添えをいただきながら、職員一同、努力してまいります。

今年もお正月は新潟の実家で過ごしました。まだまだ元気な母ですが、少しずつ台所仕事の引継ぎをしています。「私がやるから座ってて」と言ってもいつの間にか後ろに立っていて「昆布巻きのかんぴょうは足りてる？」とか「のっぺいの里いも、今年はどう？」などと声をかけられます。結局は一緒につくりながら他愛もない話をするのがここ何年かの恒例となっています。話をする中つくづく思うのは、1年間が短く感じられるようになったなあ、ということです。話をしている昨年のことか今年のことかが曖昧になることも、正直、あります。前の経験と重なることの記憶が「圧縮」してしまうのでしょうか。

時間は誰にも平等なはずですが、時間が伸び縮みするような感覚に襲われることがあります。1時間より長く感じる5分間があったり、一瞬のように過ぎてしまう1時間があったり。興味がもてない内容の講演会と、友達と楽しくご飯を食べている1時間が同じ時間とはにわかに信じられません。時間とは、平等に見えて、随分主観的なもののようです。

それを踏まえておきながら、つい、してしまいがちなことは、大人になった私がすでに経験してきた悩みを子どもたちが抱えているとき、「〇〇すればよい。」とアドバイスすることです。「あなたのために」という思いのアドバイスは、愛にあふれています。ですが、現在進行形で悩んでいる子どもにとって、一足飛びにもたらされた回答が子ども自身の力になっていたのでしょうか。そう考えたときに、わたしは、「あなたとともに考えよう」「ともに悩む時間を過ごそう」と言ってあげられる人でいたい、と思うようになりました。時間をともに過ごす中で、少しずつ悩みを言語化し、自分なりの解決策を発見するお手伝いができるといいな、と思っています。

さあ、3学期のはじまりです。今年も、子どもたちの「新発見」を「ともに」喜び、「ともに」楽しむ1年にしていきましょう。保護者の皆様、地域の皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。